

風越高校の目指す未来の学習者像

「風越高校独自の教育プログラム」

飯田風越高校は「国際的な教育プログラムを研究する高校」に指定されており、令和2年度から研究を進めてきました。本校ではこれまでに国際的な教育プログラム（IB）にヒントを得て、独自の教育プログラムを作成すること、効果的な留学支援体制を確立することを目標に研究を行ってきました。独自の教育プログラムの一環として、F-単元計画という授業の指導案を作成して授業を行っています。この指導案は先生たちが皆さんにどのような力を身に付けて欲しいのか、そのためにどのような授業をすればいいのかを考える手助けになっています。他にも、皆さんの力が身についたのかを評価するルーブリック評価表を活用することで皆さんの学習到達状況を視覚化し、今後はどんな部分を伸ばせばいいのかを示すことができるようにしてきました。また、留学を志す生徒を支援するために『アカデミックスキル』という授業が2年生と3年生で開講しました。2年次は国際教養科のみの選択科目ですが、3年次には普通科の生徒も選択が可能です。さらに、グローバルな視点を身に付けることを目的として『世界の中の日本』（国際教養科2年次選択科目）という授業も開講しました。この授業を履修した3年生の中には本校卒業後に海外大学へ進学をする人もいます。

「風越高校の目指す10の学習者像の達成状況」

本校で実施している独自のプログラムの参考となっている国際的な教育プログラム（IB）には「こんな生徒を育てたい」、「こんな生徒になって欲しい」という10の学習者像があります。本校のプログラムもそれを参考にし、10の学習者像を設定し、その学習者像に近づけるように独自のプログラムをデザインし、実施してきました。昨年、皆さんに協力をお願いしたアンケート結果をもとにその学習者像に皆さんがどれだけ到達しているのかをグラフ【図1】でまとめてみました。70%を達成目標とすると半分の項目で目標を達成することができました。もちろん、まだ伸び代のある部分もありますので、来年は良い部分はさらに伸ばし、伸び代がある部分はそこを成長させることが出来たらいいなと思っています。

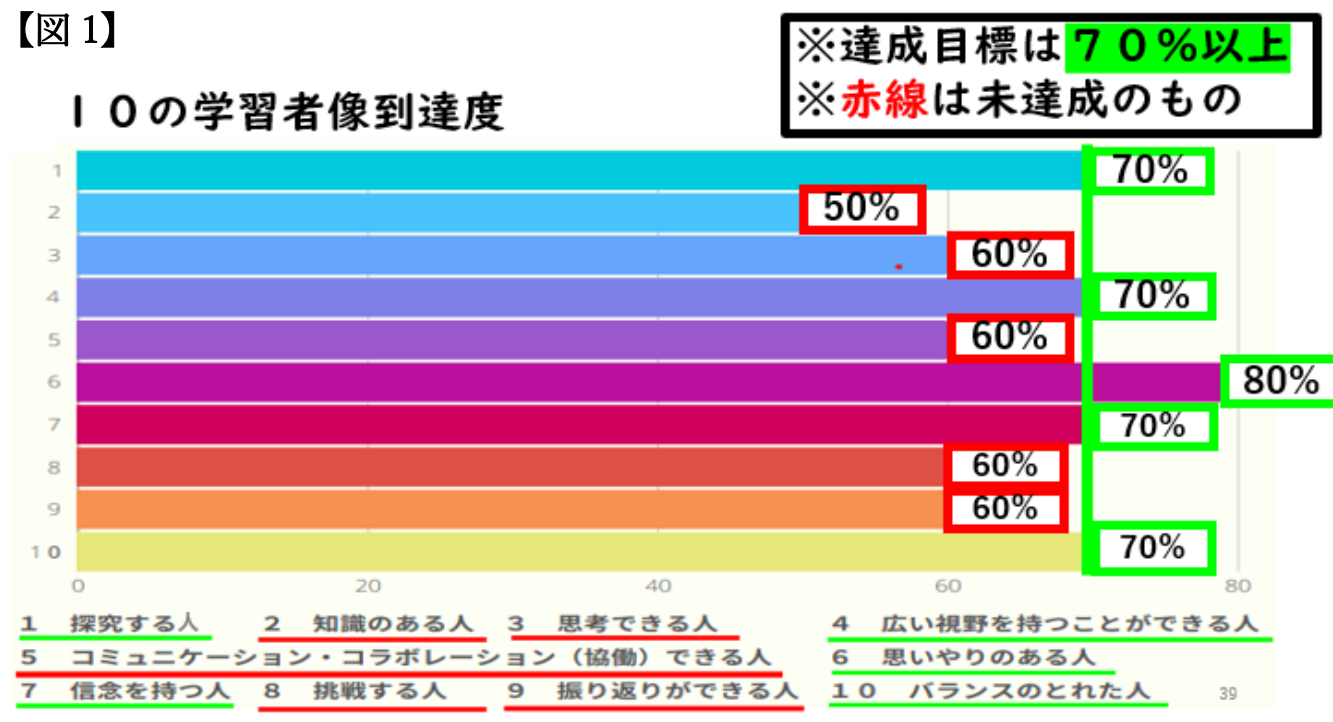
アンケートの結果をまとめる中で風越生の特徴【図2と3】も見えてきました。先ほどの10の学習者像の達成状況と同じく、良い部分はさらに伸ばし、伸び代がある部分は成長できるといいなと思っています。来年度さらに成長できるように勉強やクラブ活動、生徒会活動などにより積極的に取り組んでいきましょう。

「風越高校の目指す未来の学習者像」

本校が参考にした国際プログラム（IB）は、第一次・第二次世界大戦を反省し、世界平和に貢献する若者を育てようとしたことにオリジン（起源）があります。そのためこのプログラムでは、世界のあらゆる問題を解決するための知識や思考力、コミュニケーション能力だけでなく、違いを理解・尊重する姿勢や共感する思いやりなどの人間性を高めていくことを目標にしています。

ここで皆さんに質問です。みなさんにとって理想の未来とはどんな世界でしょうか？その未来はあなただけが幸せで笑っている世界でしょうか？きっと多くの人が想像する理想の未来とは自分だけでなく、友達や家族、周囲の人も幸せに笑っている未来なはずです。自分の幸せが周りの人の幸せにもなるように行動する人が増えたとき、それは社会を大きく変革するきっかけとなるはずです。国際プログラムの起源である世界平和というと壮大すぎますが、みんながhappyになることを願い、そのために何ができるかを考え、行動できる風越生が増えたらいいなと思っています。そしてそれが風越高校の目指す未来の学習者像だと考えます。

【図 1】



【図 2】

風越生の長所

○コミュニケーション能力、協調性、学習への主体性、他者や異文化理解などは全体的に高い

○広い価値観に触れようとする姿勢や学び続けることへの意欲が高い

○予想外の事態にも立ち向かい、チャレンジ精神のある生徒が多い
 →前向きな姿勢の生徒が多い

【図 3】

風越生の今後の課題

○学校や地域社会の問題、あるいはグローバルな課題について考えたり、行動する積極性がない

→**ローカルとグローバル視点の育成**（自分と社会とのつながりを意識）

○授業で学んだ知識や技能を実際の生活の中で活用できていない

→**知識や技能の活用する場面を自ら考え、活用する場面を増やす**

○リーダーシップを発揮することにためらいを感じる生徒がいる

→クラブ長や委員長以外の生徒の**リーダーシップと主体性の向上**（全員が主役）

○**学習の振り返りや学習方法に課題**を感じている

→学習を定期的に振り返り、次の学習に活かす習慣作り

参考文献

“国際バカロレア教育とバイリンガル教育が持つ共通の課題”. ワールドファミリーバイリンガルサイエンス研究所 2019. Retrieved Jan 21,2025.

発行：未来の学校事業運営委員会「Mirai 研」